



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

モーリタニア・イスラム共和国
 — 2019年度 拠点機能回復等推進事業 —
 (終了時評価 2020年4月)

事業概要

国名	モーリタニア・イスラム共和国
プロジェクト名	漁業開発のための施設修復プロジェクト
実施期間	2019年9月6日(署名完了日)～2020年3月31日
相手国政府覚書署名 省庁名及び実施機関	覚書署名省庁：水産・海洋経済省 実施機関：水産職業訓練・資格センター (CQFMP)

プロジェクト実施の経緯と背景



モーリタニア・イスラム共和国(以下「モーリタニア」という。)が有する 234,000 km²の排他的経済水域には 180 万トンの潜在漁獲量があるとされている。同国水産業による外貨収入は国家全体収入の 4 割以上を占めており、同国の社会経済にとって重要な役割を果たしている。

モーリタニアは現在、零細漁業振興のための水産業の振興、開発に取り組んでいるところであり、同国政府は 2019 年 6 月 20 日付水産・海洋経済省水産資源開発総局長発書簡により海外漁業協力財団(以下「財団」という。)に対し、零細漁業発展のための技術支援として北部沿岸零細漁村に所在する

ブラワッカ職業訓練センター施設の修理・修復と技術の移転を要請した。

財団は我が国とモーリタニアとの漁業関係に鑑み、この要請に応えることとし、技術協力事業の実施を決定した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	モーリタニアの零細漁業における漁業関連技術が向上する。
プロジェクト目標	同国職業訓練センターへの訓練用資機材の導入、設備改善及び技術移転を図ることで漁業関連技術が向上し、漁業活動が活性化する。
成果	船外機の修理・整備をするための訓練施設設備が整備された。 職業訓練センターの訓練内容が充実し、有効に活用される体制ができた。 船外機の修理・整備に関する技術をカウンターパート（訓練センター講師）が習得した。
活動	①ブラワッカ職業訓練センターの船外機、製氷施設等の修理修復の実施及び技術訓練のために必要な資機材の導入と設置 ・訓練施設改修工事及びメンテナンス機材設置 ・資機材保管室改修工事 ②政府が提供するカウンターパートに対する、財団専門家及び技術者による前項施設及び資機材のメンテナンスと活用に関する技術移転 ・技術移転のための座学、実技講習の実施 ・教育用資機材の保守管理の指導 ③他の職業訓練センターの講師や訓練生を受入れての座学・実技教育の実施
投入	財団側 1) 専門家 技術総括 計画：2020年1月11日～3月9日（59日間） 実績：2020年1月11日～3月9日（59日間） 業務調整 計画：2020年1月11日～3月9日（59日間） 実績：2020年1月11日～3月9日（59日間） 電気技術者 計画：2020年2月9日～2月24日（16日間） 実績：2020年2月9日～2月21日（13日間） 延日数（上記3名専門家の平均） 計画：（44.6日） 実績：（43.6日）（計画対比：98%） 2) 主な資機材 ソーラー発電設備、技術移転用工具及び機材、実技用船外機本体、船外機整備用資機材等、分解整備教本他

	<p>3) 事業費 予算額 47,608 千円 実績額 49,319 千円 (予算対比: 103%)</p> <p>相手国側</p> <p>1) カウンターパート 水産・海洋経済省技師、ブラワッカ職業訓練センター講師</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 カウンターパートの人的費、資機材国内輸送経費、水道、電気の供給</p>
--	---

評価事項

◆ 妥当性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

モーリタニア水産業が重視されてきた背景には、国家経済を牽引する外貨獲得産業であるという背景がある。しかし、国民が食料としての水産物に関心が低かったため、沿岸漁業管理行政の能力は十分に改善されず、沿岸漁場は主に近隣国の漁業者により利用されてきた。近年、モーリタニア政府は、沿岸水産資源が国益に貢献してこなかったことを問題視し、水産資源を食料資源の観点から国家財産として認識するようになってきている。

モーリタニア政府は、「持続可能な水産開発戦略 2015-2019」と題したマスタープランにおいて、貧困対策や雇用に関する社会問題を水産開発のアプローチから取り組むと同時に、水産資源の持続的利用を実現するためのブルー・エコノミー政策の推進を強調している。水産物に対するモーリタニア国内需要は年々高まっており、国内魚類供給公社 (SNDP) 統計によると、2014年の3,503トンから2016年の7,850トンと水産物の国内消費が都市部を中心に飛躍的に伸びている。

水産物の国内消費需要は今後も高まることが見込まれ、モーリタニア人漁民の育成は急務となっていることから、本案件を実施することは妥当と認められる。

2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

モーリタニア政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言を要請され、事前調査において、ブラワッカ職業訓練センター施設の修理・修復と船外機の整備に係る訓練センター講師への技術指導への協力ニーズが高いことが確認された。同センターにおける訓練生の数や当該施設の機能回復に裨益する周辺住民（漁業者）は多く、協力ニーズとの整合性は高い。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

既存の施設・敷地内における活動であることから、新たに施設周辺の環境に影響を及ぼすことはない。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図り、施設の適切な運営・管理に対する助言と指導を行うものである。今回の対象施設は、訓練施設の改修、太陽光発電設備の設置、訓練用船外機の導入と取扱い指導であり、周辺水域の水産資源に対する負荷を大きくするなどの影響を与えるものではない。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

◆ 効 率 性

1. 事業費及び実施期間

事業費は予算をやや上回ったが、実施期間を計画より若干短縮できたことから、事業費及び実施期間は概ね適切であった。（予算及び計画対比：事業費 103%、実施期間 98%）

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

資機材及び専門家は、実施計画に従いタイミングよく投入され、プロジェクト活動は計画期間内にすべて完了し、それぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

特になし。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆有効性

1. プロジェクト目標の達成度

① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：同国職業訓練センターへの訓練用資機材の導入、設備改善、及び技術移転を図ることで漁業関連技術が向上し、漁業活動が活性化される。

既存の訓練施設の改修と整備により、施設の本来機能が回復した。ディーゼル発電機によるこれまでの電力確保に加え、本事業で設置した太陽光発電による電力の供給が可能となり、既存の電源との併用が実現し、訓練施設の機能がさらに拡充されたことから、計画どおり職業訓練センターの機能が回復した。また、必要な技術移転が行われた結果、カウンターパートの技術の向上が図られ、プロジェクトの目標は達成された。

② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

① ブラワッカ職業訓練センター施設の修理修復及び技術訓練のために必要な資機材の導入と設置

訓練施設や資機材保管室の改修工事、ソーラー発電設備の設置及び教育訓練用船外機本体、船外機メンテナンス機材等の技術訓練のために必要な資機材を導入した。

② 政府が提供するカウンターパートへの訓練用資機材（船外機）の整備、保守管理に関する技術移転を行なうとともに、他の職業訓練センターの講師や訓練生を受け入れ、座学・実技教育を実施する。

政府が提供するカウンターパート（訓練センター講師）及び他の職業訓練センターの講師を受け入れて座学・実技講習会を開催した。財団専門家及び技術者により船外機の取扱い及び保守管理に関する技術移転を行なった。

◆インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトで設置したソーラー発電設備と既存のディーゼル発電を併用する電源供給体制を構築したことで同訓練センター施設の安定稼働が可能となった。また、訓練用資機材の導入と船外機講習の実施により、ブラワッカ職業訓練センターの講師の船外機整備技術が向上し、技術訓練のノウハウが改善されたことから、卒業生が将来的にモーリタニアの新規漁業者として育っていくことが見込まれる。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、今後同センターから船外機の修理やメンテナンスを行うメカニックが輩出できるようになれば、ブラワッカ職業訓練センターで修理などを請け負うことも可能となり、ブラワッカ及び近隣漁村での収入創出活動となり得るとともに、周辺地域の漁業活動の活性化に資することが見込まれる。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

モータニア政府は、同国の零細漁業者を育成することを重視し、ブラワッカ職業訓練センターを設立していることから、本プロジェクト終了後も、対象施設や供与機材は有効に活用されることが期待される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

船外機の取扱い及び保守管理の講義が、本事業で改修・整備した訓練施設にて実施され、訓練用資機材も同講習にて活用される見込みである。今後は、技術指導を受けた講師陣が訓練用資機材の適切なメンテナンスを行っていく必要があるが、それに際しては、訓練用資機材を現地で取扱う販売店がアフターサービスとして講師を支援することになっている（3年間）。また、メンテナンスに必要な資機材については十分供与し、適切な取扱い方法についても指導を行っている。今後は現地販売店と密に連絡を取り合い、メンテナンス作業、資機材の在庫管理等を行っていくこととなるが、現地講師は訓練用資機材を活用した演習プログラムの実施に対する意識を高く持っており、プロジェクト終了後も効果は持続される見込みである。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上